

令和4年度北上医師会緩和ケア医療研修会 【アンケート結果】

＜参加者（回答者）の属性＞

性別

項目	n	%
女性	19	79%
男性	5	21%
総計	24	

年代

項目	n	%
20代	3	13%
30代	1	4%
40代	7	29%
50代	10	42%
60代	2	8%
総計	24	

職種

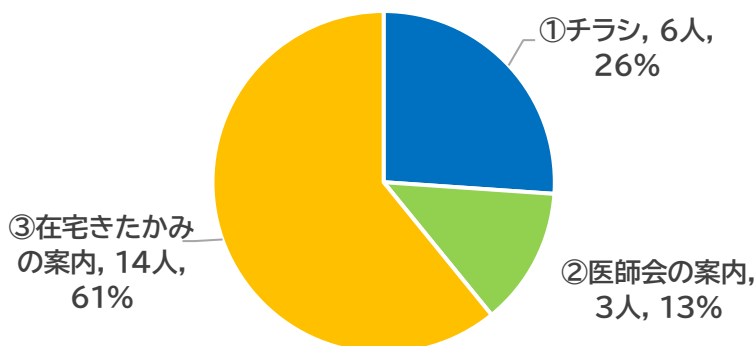
項目	n	%
看護師	7	29%
MSW	4	17%
保健師	3	13%
ケアマネージャー	2	8%
介護支援専門員	2	8%
訪問看護師	2	8%
医師	1	4%
薬剤師	1	4%
無回答	2	8%
総計	24	

職場

項目	n	%
北上市	19	79%
奥州市	2	8%
花巻市	2	8%
盛岡市	1	4%
総計	17	

問1. この講演会は、どのようにして知りましたか。

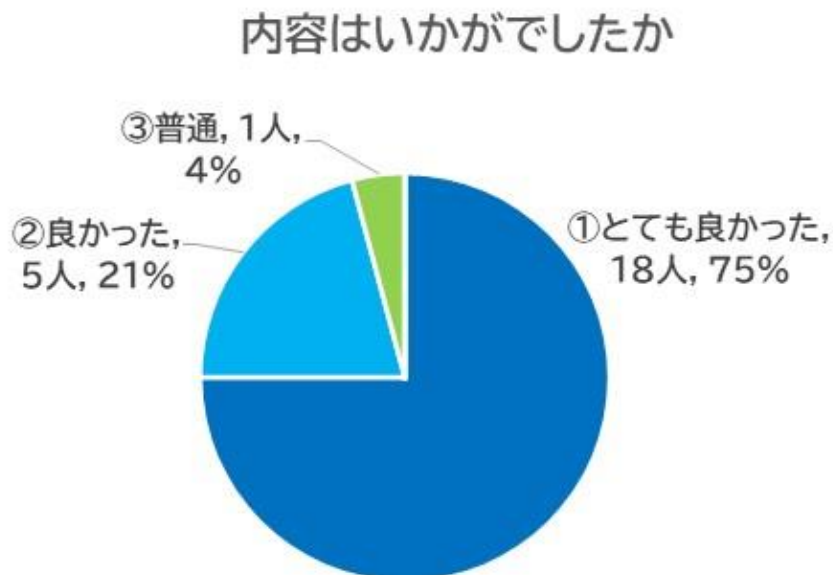
この講演会は、どのようにして知りましたか。



問2. 参加した理由

- がん患者さんに関わる機会が増え、今後の対応のための学ぶを得たいと考えたため。(MSW:20代)
- テーマ、講師に惹かれて参加した。(看護師:40代)
- 外来で癌や化学療法の患者さんと関わっているため、勉強、参考になると思ったため。(看護師:50代)
- 緩和ケアについて興味があったため(訪問看護師:40代)
- 緩和ケアに興味があるから(訪問看護師:50代)
- 緩和ケアの現状について知りたかったから(ケアマネージャー:)
- 緩和ケアの現状を知りたかったため(介護支援専門員:50代)
- 緩和ケアの実情を把握、理解するため(薬剤師:50代)
- 緩和ケアをもっと知りたい(ケアマネージャー:40代)
- 興味深い内容だったから(看護師:50代)
- 研修の案内より連携・協働の実際のところに関心を持ったため(MSW:20代)
- 行政として出来ることのヒントを得たかった(保健師:40代)
- 講演者のお話を聞いてみたいと思ったので。(40代)
- 講師の先生の取り組み、お話をお聞きしたかったから。(MSW:30代)
- 高齢化、老夫婦世帯、独居老人など増加している中、何らかの疾患で入院し退院した先での生活は、在宅か施設となるため地域連携は益々期待される部分だと思うので参加しようと思った。(看護師:50代)
- 少し現場を離れていたため、緩和ケアの現状について学びたいと思いました。(保健師:50代)
- 地域の現状を知りたいと思った。(看護師:50代)
- 中部病院、済生会病院、えんなごみのお話を聞いたかった(医師:50代)
- 当科で悪性疾患の患者が増えており、実際、精神的ダメージを受けた患者さんに対しての対応に悩んだ事があった。(看護師:50代)

問3. 内容はいかがでしたか。



問3の評価理由

<(1)とても良かった>

- ・ とても参考になりました。(訪問看護師:40代)
- ・ ホスピタリティ的な症例を聞くことが出来た。緩和ケアの目的が分かった。(看護師:50代)
- ・ 各機関の取り組みや実際の事例を知ることが出来る。イメージがとても沸いた。(MSW:20代)
- ・ 緩和ケアにおいて、大事なポイントを改めて確認できた。又、簡単ではないにしても基本在宅でターミナル期を過ごす事に対する心の準備の様なものを得た気がしている。(保健師:50代)
- ・ 緩和ケアの地域連携についてとても深く学ぶことが出来ました。(看護師:50代)
- ・ 関わる方々が一生懸命努力していると知りました。(介護支援専門員:50代)
- ・ 現場の第一線の先生方の話を聞くことが出来た(保健師:40代)
- ・ 個々の症例の対応はもちろんです、済生会病院さんが緩和に取り組まれる意欲があり、頑張っておられることに心強く感じました(訪問看護師:50代)
- ・ 自分に不十分なことが分かりました。すごく刺激になり、今後も緩和ケアに前向きに取り組んでいきたいです。(看護師:50代)
- ・ 実例から緩和ケアにおける連携の在り方を知ることが出来た。(MSW:20代)
- ・ 症例等の提示で分かりやすかったです。(薬剤師:50代)
- ・ 地域連携のより強いかわりが見えました(医師:50代)

<(2)良かった>

- ・ 関わる人、関係者が相談できる関係、知恵を出し合える関係が大切であることがよくわかりました。そのような関係に簡単にはなれないと思いますが、友好的関係が築けるような努力も必要と感じました。(40代)
- ・ 施設や在宅のリアルな様子が聞けたことで、今後対象者への支援に役立てて行けそうに感じた。(看護師:40代)

問4. このほか、感想やご意見がありましたら、ご入力ください

- 医療用麻薬についての要望になりますが、平日の午後5時及び、土日休日では医薬品卸からの入荷ができない為、即日・迅速な対応が困難な場合があります。事前の情報交換、退院時や、在宅への移行期間には、薬の残に余裕があるご処方をお願いします。医療用麻薬以外にも、出荷調整で入荷しない薬剤もあり、確保が困難な薬剤もあるので、場合により代替薬または類似薬への切り替え等をお願いすることもあるかもしれませんので、薬局との連携についてもご高配をお願いします。(薬剤師:50代)
- 緩和ケアは本当に個々それぞれで求められるものが異なるので、この勉強会をいかして、逝ってしまう方に求められるケアができる様になりたいと思います。(訪問看護師:50代)
- 取り組みや悩みをうかがうことができ、みなさん悩みながら取り組まれていることがわかりました。無理！ではなくできる方法を考えられる仲間を増やしていきたいと思いました。本日はありがとうございました。(：40代)
- 他施設の看取り状況を聞く機会を得られた。(介護支援専門員:60代)
- 地域連携の大切さを改めて確認しました。(：40代)
- 特に、最期の時を迎える方に対し、もしかしたら自分もどこか不安で何度も血圧測定やモニターチェックをしていたかも知れません。それが本人の意思やQOLを損なう行為だという事に気づかせて頂いた、と目から鱗でした。色々とし唆を頂きました。ありがとうございました。(保健師:50代)
- 非常に勉強になりました。(医師:50代)
- 本人、家族の思いに寄り添って、出来る範囲で叶えて、一緒に喜び合える結果となっている連携が素晴らしいと思いました。(看護師:50代)
- 様々な症例を聞き、緩和の実際を知ることが出来た。とても温かい気持ちになれた。学習会、参加したいです。医ケ児の緩和も希望します。(看護師:40代)